



町田市北部丘陵活性化計画

2011年3月

一人と人が育む、美しく、いきいきとした
町田ならではの里山をめざして—

町田市

< 概要版 >

～ 目 次 ～

町田市北部丘陵活性化計画とは	1
町田市北部丘陵活性化計画全体構成	2
第1章 計画策定の必要性	4
1-1 北部丘陵の概況およびこれまでの経緯	
1-2 社会状況の変化	
1-3 北部丘陵の価値・魅力、課題	
1-4 計画策定の必要性	
第2章 計画の基本的な考え方	5
2-1 計画の前提	
2-2 計画の枠組み	
2-3 計画の視点	
2-4 計画の目標像	
2-5 基本方針	
基本方針1：町田ならではの里山を創造する担い手を育む	
基本方針2：いきいきと住み続けられる環境を整える	
基本方針3：かけがえのない多摩丘陵の風景を将来に引き継ぐ	
基本方針4：資源を磨き「地域力」を発信する	
第3章 4つのプロジェクトによる展開	19
3-1 4つのプロジェクトによる事業の実施	
(1) 4つのプロジェクトによる計画の実現	
(2) 『町田スタイル』で取り組む4つのプロジェクト	
(3) プロジェクトに関わる事業の実施	
(4) 各プロジェクトの内容	
(5) 各プロジェクトにおける具体事業のイメージ	
3-2 先行事業実施地域におけるプロジェクトの展開イメージ	
(1) 小山田地域	
(2) 小野路地域	
第4章 計画の推進に向けて	35
4-1 計画の推進体制の整備	
4-2 計画の定期的な点検・評価	

町田市北部丘陵活性化計画とは

北部丘陵は東京都心や横浜中心部から程近く、すぐそばには多摩ニュータウンや町田市の市街地が広がる場所に位置します。そうした都市基盤の整った市街地が間近にある中で豊かな緑に恵まれ、今でも農の環境が維持・継承されており、数多くの歴史・文化の足跡も見ることができます。こうした立地・緑・水・農・歴史・文化はすべて北部丘陵の魅力であり、価値あるまちづくりの資産です。

また、近年の社会状況の変化は、農や緑に対する関心の高まりをもたらしています。自然環境や生活の豊かさが重要になるこれからの社会において、北部丘陵が持つ資産は大きな可能性を秘めています。

町田市北部丘陵活性化計画は、こうした資産をさらに磨き、北部丘陵の価値を高めて将来へ引き継いでいくことで、活力のある地域の発展へとつなげていくための計画です。

■北部丘陵の位置



北部丘陵は、町田市の北部に位置し、多摩ニュータウンと町田市の市街地に囲まれた約1000haの丘陵地帯です。北部丘陵は恵まれた自然環境を備え、多くの歴史・文化の足跡をみることができます。



町田市北部丘陵活性化計画 全体構成

第1章 計画策定の必要性

1-1 北部丘陵のこれまでの経緯

・小野路地区・小山田地区における区画整理事業の中止 ほか

1-2 社会状況の変化

・地球温暖化の防止や環境負荷の低減 ・生物多様性の保全 ほか

1-3 北部丘陵の価値・魅力、課題

<北部丘陵の価値・魅力>

・広域的な緑のネットワークの一翼を担う大緑地帯 ほか

<北部丘陵が抱える課題>

・耕作放棄地や手入れの行き届かない樹林が増加 ほか

1-4 計画策定の必要性

・北部丘陵の資産をさらに磨き、価値を高めて将来に引き継いでいくことが、活力のある地域の発展へとつながる。そのために、北部丘陵の資産を将来に引きついでいくための明確な目標像や、その目標像を着実に実現していく道筋を示した計画が必要

第2章 計画の基本的な考え方

2-1 計画の前提

・まちづくり基本構想の「農とみどりのふるさとづくり」の主旨を踏まえ、実効性のある計画を立案

* 農業振興地域の指定、「(仮称)農と緑の公社」の設立に頼らず、これに代わる手法を検討

* 市街化調整区域の枠組みは変更しない

2-2 計画の枠組み

・計画の位置づけ：他の関連計画との連携

・計画の構成：基本計画と実施計画の要素を併せ持つ計画

・計画の期間：12カ年（2011年度～2022年度）
（取り組みの進捗状況や成果、社会経済状況の動向を見極めながら、迅速で適切な対応ができるように、3年ごとに評価・検証を実施し、結果を公表するとともに必要に応じて見直しを行います）

2-3 計画の視点

① 農や緑に触れあう機会を創出し、多様な人々との協働による心豊かな市民生活の実現

② 大都市直近の魅力を活かした町田独自のまちづくりの推進

③ 広域的に貴重な資産としての丘陵地の自然・歴史・文化の継承

2-4 計画の目標像

人と人が育む、美しく、いきいきとした町田ならではの里山をめざして

2-5 基本方針

町田ならではの里山を創造する担い手を育む

- ① 農業を実践する人から緑を楽しむ人、学校から企業まで、あらゆる人や組織を担い手として呼び込む
- ② 担い手を育み、交流の場を確立する
- ③ 担い手がいきいきと活躍する環境を整備する

いきいきと住み続けられる環境を整える

- ① 必要な道路を整備し、交通アクセスを改善する
- ② 生活の質を高める施設の整備をする
- ③ 農地や農道の整備等により営農環境を改善する

かけがえのない多摩丘陵の風景を将来に引き継ぐ

- ① 法制度等を用いて重要な緑を確実に保全・再生する
- ② 独自の誘導・支援により東京随一の美しい丘陵風景を保全・再生する

資源を磨き「地域力」を発信する

- ① 自然・歴史・文化資源を磨き、新しい観光・交流の拠点をつくる
- ② 北部丘陵の魅力や活動を積極的に情報発信する
- ③ 地域の経済的な循環が成り立つ持続可能な仕組みをつくる

基本計画の要素

第3章 4つのプロジェクトによる展開

3-1 4つのプロジェクトによる事業の実施

担い手確保・育成プロジェクト

担い手の様々な志向や北部丘陵への関わり方に応じて多様な事業を展開する。そうした担い手の活動が定着し、自律した活動へつながるように支援する。また事業には市有地を先導的に活用しながら民有地の活用へと広がる取り組みを行う。

- 具体事業
イメージ
- 市有地を活用したアイデアコンペの実施
 - 市民農園、体験農園の整備
 - 企業・大学の社会貢献活動等と連携した農地・樹林地の活用

生活・なりわい環境整備プロジェクト

道路整備等交通アクセスの改善、生活の質の向上、営農環境の改善を図る事業を実施する。事業の実施には北部丘陵の環境や風景との調和に十分配慮する。また初期期から地域住民とともに検討し、協力を得ながら実施へとつなげていく。

- 具体事業
イメージ
- 生活道路の整備
 - 道路整備に伴う土地利用方策の検討（地区計画制度等の活用）
 - 丘陵の地形を活かした農地の改善や農道の整備

風景継承プロジェクト

重要な緑や美しい丘陵風景の保全・再生を図る。また同時に水路や河川の修景に取り組む等、可能な場所から少しずつ風景を守り育む具体的な事業を行い、担い手による保全・再生を基本としながら、必要な箇所は法制度の活用との両面から取り組む。

- 具体事業
イメージ
- 都市計画制度や町田市緑の保全制度の活用
 - 町田市景観計画による景観形成誘導地区等の活用
 - 丘陵の風景に馴染む水路・河川の維持・改善

地域力発信プロジェクト

北部丘陵の魅力高め地域ブランドの向上につなげるために地域資源を磨き、観光・交流を図る事業、北部丘陵の魅力や活動を幅広く情報発信する事業、地域の経済的な循環の確立につながる事業などを戦略的に展開する。

- 具体事業
イメージ
- フットパスの環境整備
 - 「(仮称)北部丘陵ポータルサイト」の開設
 - 農産物直売所の開設・運営の支援

「町田スタイル」で取り組む 4つのプロジェクト

『町田スタイル』とは、北部丘陵に関わる人々がそれぞれの資源や能力、得意分野を活かし、話し合う機会を持ちながら、交流を深めビジョンを共有して実践していく取り組み方法

3-2 先行事業実施地域におけるプロジェクトの展開イメージ

- ・小山田地域 ・小野路地域

第4章 計画の推進に向けて

4-1 計画の推進体制の整備

- ・地域住民を始めとする多様な担い手の協働
- ・事業推進のための庁内体制の連携強化
- ・国、都、近隣自治体との連携強化

4-2 計画の定期的な点検・評価

- ・計画・プロジェクトの進行管理

実施計画の要素

第1章 計画策定の必要性

1-1 北部丘陵の概況およびこれまでの経緯

<これまでの経緯>

- 小野路地区・小山田地区における区画整理事業の中止
- 「北部丘陵まちづくり基本構想」を策定
- 町田市が約100haの土地を都市再生機構等から取得
- 農業振興地域の指定、「(仮称)農と緑の公社」の設立には至っていない

1-2 社会状況の変化

- 地球温暖化の防止や環境負荷の低減
- 生物多様性の保全
- 食の安全・安心の社会問題化
- 生活に対する価値観やライフスタイルの変化

1-3 北部丘陵の価値・魅力、課題

<北部丘陵の価値・魅力>

- 広域的な緑のネットワークの一翼を担う大緑地帯
- 大都市直近にあり、多摩丘陵の原風景を色濃く残す希少な地域
- 生物の生息・繁殖環境として恵まれた環境を維持
- 中世から現代まで、町田市の歴史・文化の足跡が蓄積されている
- 減少しつつあるものの、現在でも農の環境が維持・継承されている
- フットパスの取り組みや湧水・里山等を保全・再生する活動等が広がりつつある

<北部丘陵が抱える課題>

- 維持・管理に関わる担い手が少なく耕作放棄地や手入れの行き届かない樹林が増加
- 幹線道路の整備が進んでおらず周辺にある鉄道駅等からのアクセスが不十分
- 自然景観や歴史・文化等、地域の資産を引き継ぐ手立てが曖昧
- 生活に必要な都市基盤整備が不十分
- 北部丘陵の認知度が低い
- 地域が主体となって総合的に活性化に取り組む環境が整っていない

1-4 計画策定の必要性

北部丘陵は東京都心や横浜中心部から程近く、すぐそばには多摩ニュータウンや町田市の市街地が広がる。そうした都市基盤の整った市街地が間近にある中で、北部丘陵にはぼっかりと別世界のように豊かな緑があふれている。また、今でも農の環境が維持・継承されており、数多くの歴史・文化の足跡も見ることができる。こうした立地・緑・水・農・歴史・文化はすべて北部丘陵の魅力であり価値あるまちづくりの資産である。

また、近年の社会状況の変化は、農や緑に対する関心の高まりをもたらしている。自然環境や生活の豊かさが重要になるこれからの社会において、北部丘陵が持つ資産は大きな可能性を秘めている。

この資産をさらに磨き、北部丘陵の価値を高めて将来へ引き継いでいくことが、活力のある地域の発展へとつながるものと考えられる。そのためには北部丘陵を将来に引き継いでいくための明確な目標像や、その目標像を着実に実現していく道筋を示した計画が必要になる。

第2章 計画の基本的な考え方

2-1 計画の前提

計画の策定にあたっては、北部丘陵まちづくり基本構想（2005年5月）および関連するその他の計画や、これまでに北部丘陵で実施してきた事業の成果をもとに、北部丘陵まちづくり基本構想で示したまちづくりのテーマ「農とみどりのふるさとづくり」の主旨を踏まえます。

北部丘陵まちづくり基本構想では実現方策の主な手法として、農業振興地域の指定および「（仮称）農と緑の公社」の設立を掲げていました。それらの実現に向けて検討を行ってききましたが、農業振興地域の指定には面積要件（農振農用地100ha以上）があり、要件を満たすための広域的な合意形成は困難な状況になりました。また「（仮称）農と緑の公社」は北部丘陵のまちづくり推進主体として、農、みどり、まちづくりの分野でハードからソフトまですべてを担う組織として検討していましたが、農業振興地域の指定が困難になることで組織としての収益性の確保が難しくなり、共同出資者の同意も難しく、設立が困難になりました。

そのため、速やかな北部丘陵の課題の解消および活性化のために、これらに代わる手法を検討し、実効性のある計画を立案します。

また、現在都市計画において指定されている市街化調整区域の枠組みについては「農とみどりのふるさとづくり」の主旨を踏まえた計画とすることから、基本的に変更しないことを前提に考えます。

これらの前提に基づき、活性化計画を定め、その計画に基づいて段階的に取り組みを実施していきます。

2-2 計画の枠組み

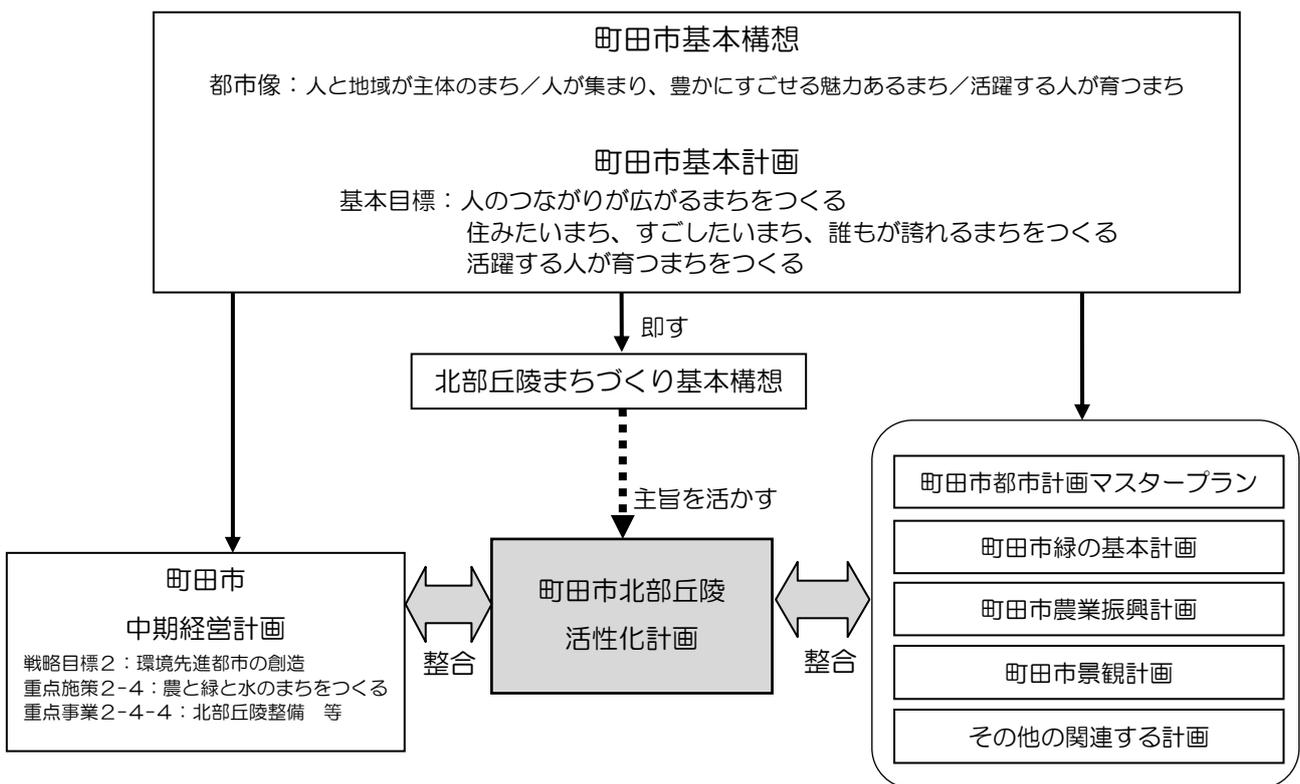
(1) 計画の位置づけ

町田市では、2005年5月に「北部丘陵まちづくり基本構想」を策定し、その中で「農とみどりのふるさとづくり」をまちづくりのテーマに掲げ取り組んできました。

町田市北部丘陵活性化計画は、町田市基本構想および町田市基本計画に即し「北部丘陵まちづくり基本構想」で示された「農とみどりのふるさとづくり」の主旨を活かして策定しました。

また、この計画と関連の深い他の計画「町田市都市計画マスタープラン」「町田市緑の基本計画」「町田市農業振興計画」等と、連携・補完しながら計画の実効性を確保していきます。

■計画の位置づけ



2-3 計画の視点

「1-4 計画策定の必要性」「2-1 計画の前提」を踏まえ、以下の視点を重視して計画を立案します。

① 農や緑に触れあう機会を創出し、多様な人々との協働による心豊かな市民生活の実現

農や緑とふれあうことで生活の充実感を得たり、自然環境に配慮した生活を志向する人が増える等、価値観やライフスタイルの変化が顕在化する中で、自然環境に対する価値が見直されています。北部丘陵は市民が身近に農や緑にふれあうことができる貴重な場所です。

こうした環境を更に活かしながら、北部丘陵で生活を営む人のみならず北部丘陵に関心を抱き、関わる様々な人々が協力して、北部丘陵の活性化を図るとともに町田市全体の価値向上につなげ、地域住民および町田市民全体の心豊かな生活を実現していく、という視点を重視します。

② 大都市直近の魅力を活かした町田独自のまちづくりの推進

人口減少社会を迎え、都市間での競争が今後さらに激しくなることが想定される中で、これからはますます個性あるまちづくりが重要になってきています。北部丘陵は北に多摩ニュータウン、南に町田市の市街地という都市基盤の充実した市街地に取り囲まれています。その中に、まるで別世界のように豊かな緑、歴史・文化が残されており、その立地や環境そのものが北部丘陵の大きな魅力です。またこれまで取得してきた土地は、北部丘陵の活性化のために活用できる貴重な資産のひとつです。

こうした北部丘陵が持つ魅力を最大限に活かし、かつ丘陵内にある市有地を計画の実現に向けて先導的に活用すること等によって、地域の生活環境を整えながら、他にはない町田独自のまちづくりを進めていく、という視点を重視します。またあわせて計画や取り組みを着実に実施するための適切な進捗管理についても配慮します。

③ 広域的に貴重な資産としての北部丘陵の自然・歴史・文化の継承

北部丘陵のまとまりのある緑は、地球温暖化や環境負荷の低減への貢献、広域的な緑のネットワークの形成、生物の貴重な生息・繁殖環境として、町田市だけでなく広域的な視点からも非常に重要な存在です。また、北部丘陵の各所に刻まれた歴史・文化は、町田市の貴重な資産でもあります。

こうした現在の北部丘陵が担う広域的な役割や特性を重視し、社会的にも貴重な資産として丘陵地の自然や歴史・文化を後世に引き継いでいく、という視点を重視します。

2-4 計画の目標像

人と人が育む、美しく、いきいきとした 町田ならではの里山をめざして

東京都心や横浜の中心部から近く、多摩ニュータウンや町田市の市街地等、都市基盤の充実した中に、別世界のように広がる農の風景や樹林の緑、潤いあふれる水辺の風景が、北部丘陵の大きな魅力です。それは同時に町田市民のみならず首都圏に暮らす多くの人々にとっても貴重な資産です。

こうした空間は、そこで生活を営む人々が、暮らしとのかかわりの中で維持し育んできました。そうした自然や営みを含めて私たちは「里山」と呼んできました。しかし時代が変化する中で、里山を維持することが難しくなっています。

そこでこれからは、北部丘陵で生活を営む人、環境保全活動に取り組む団体、訪れる人々、地域の農産物を購入する消費者、教育や生産活動に取り組む学校や企業、行政等、北部丘陵に関わる多様な人々が担い手となり、相互の連携・協働によって水や緑を守り育むとともに、地域の生活環境を整えながら魅力を高め、美しく、いきいきとした、町田ならではの里山として、将来へ引き継いでいきます。

人と人が育む、美しく、いきいきとした町田ならではの里山をめざして



○子供も大人もみんなで北部丘陵の農や緑を育みます



人と人が育む、**美しく**、いきいきとした 町田ならではの里山をめざして

○丘陵の美しい風景が引き継がれています



○都市基盤が整い暮らしやすくなっています

人と人が育む、美しく、**いきいきとした** 町田ならではの里山をめざして

○家族連れや若者等がいきいきと楽しめます



○自然・歴史・文化を味わいながら散策が楽しめます



○地域の農産物が味わえます



○北部丘陵の情報集めや休憩ができます



出典：「農を活かした町おこし・村おこし」
財団法人 都市農地活用支援センター

2-5 基本方針

基本方針 1

町田ならではの里山を創造する担い手を育む

高齢化の進行、農業後継者不足等により、地域の中では環境を再生・維持する担い手が不足しています。しかし視野を広げれば、北部丘陵の周辺に広がる市街地や近隣都市の中には、農や緑豊かな環境での活動に興味をもつ潜在的な担い手が多く存在します。広大な北部丘陵の活性化のためには、これまで北部丘陵を担ってきた地域住民の活力を一層引き出すとともに、外部にも目を向け、NPOや学校、企業等の多様な主体、幅広い地域から北部丘陵を担う人材を求めていくことが不可欠になります。そのために、さまざまな取り組みを実践しながら北部丘陵を担う人材を集め育んでいきます。

【取り組みポイント】

- ① 農業を実践する人から緑を楽しむ人、学校から企業まで、あらゆる人や組織を担い手として呼び込む
- ② 担い手を育み、交流の場を確立する
- ③ 担い手がいきいきと活躍する環境を整備する

① 農業を実践する人から緑を楽しむ人、学校から企業まで、あらゆる人や組織を担い手として呼び込む

- 北部丘陵で生活を営む人、環境保全活動に取り組む団体、訪れる人々、地域の農産物を購入する消費者、教育や生産活動に取り組む学校や企業、行政等、北部丘陵に関わる様々な人々をこの地域を未来へ引き継ぐ「担い手」として考え、呼び込んでいきます。
- 本格的に農業を実践するための機会や農を楽しむための場所や環境の提供、また樹林の保全活用に興味のある人や企業・大学への活動場所や仕組みを創出する等、担い手の多様なニーズに応える多様な手法を用意して、北部丘陵の立地・緑・水・農・歴史・文化を活かし、その価値を高めていきます。

② 担い手を育み、交流の場を確立する

- 優れた農業技術を持つ農家の方や北部丘陵の自然環境を熟知した方等、地域の生活の中で培われてきた技術や能力を持った人材を発掘し、地域の担い手あるいは担い手を育成するリーダーとして活躍できる仕組みや環境を整えます。
- 地域の文化を継承する次世代の担い手を育てていきます。
- 新たな担い手と地域住民が一緒になって活躍できる環境を整えていくために、担い手同士や担い手と地域の人々の情報交換や交流の場を創出します。

③担い手がいきいきと活躍する環境を整備する

- 6つのエリア（田中谷戸、野中谷戸、東谷戸および奈良ばい谷戸、馬場、善治谷、尾根緑道付近）を中心に、様々な主体や多様な担い手が活躍する場所を創出します。
- 担い手の活動に必要な道路や駐車場、休憩施設等を整備します。
- 近年の法制度の改正等により、農地を貸しやすくまた借りやすくするための仕組みを積極的に周知または活用し農地の利活用を推進していきます。

■担い手による主な実践エリア

位置	主な内容
田中谷戸	・週末に農を楽しんだり、市民や子供たちが農作業等を通じて環境について学ぶことができるエリア。
野中谷戸	・起伏のある地形を活かして大人も子供も楽しめるレクリエーションや学生等のアイデアによって里山づくりを行うエリア。また企業や大学等の社会貢献活動と連携した自然環境保全等も実施する。
東谷戸および奈良ばい谷戸	・市民や学生・NPO等が、谷戸の田んぼや畑の再生、尾根の樹林の維持管理等に取り組み、美しい谷戸の風景の再生を目指すエリア。
馬場	・市民農園や体験農園等によって市民が気軽に農に親しむことができたり、本格的な農業に取り組むことができる等、農に関する様々な取り組みを実践するエリア。
善治谷	・植物や花に興味のある担い手等との協働により市道忠生 630号線沿道の景観づくりを進めるエリア。
尾根緑道付近	・市民農園や体験農園、クラインガルテン等、市民が気軽に農に親しむことができたり、北部丘陵で収穫した農産物を購入できるエリア。

基本方針2

いきいきと住み続けられる環境を整える

北部丘陵は大半が市街化調整区域であること等から、生活空間としての整備が十分と言える状況ではありません。しかし北部丘陵の周辺には鉄道や道路等の都市基盤が充実しており、そうしたものとつながることによって、地域に暮らす人々の利便性が向上するとともに、外からも訪れやすくなります。

そのため、緑豊かな環境に十分配慮しながら、幹線道路や生活道路の整備、汚水処理環境の改善、農地や農道の整備等、地域の生活の質を高めるために必要な基盤の整備を着実に進めていきます。

【取り組みポイント】

- ① 必要な道路を整備し、交通アクセスを改善する
- ② 生活の質を高める施設の整備をする
- ③ 農地や農道の整備等により営農環境を改善する

① 必要な道路を整備し、交通アクセスを改善する

- 小野路地域では、小野路宿のまちづくりに配慮するとともに、地域を積極的に活用するため、規定計画道路の路線計画を変更するとともに、構想されているモノレールの導入も考慮し幹線道路計画を検討します。
- 小山田地域では、北部丘陵を南北に連絡する道路として多摩3・1・6号線（尾根幹線）とつながる主要道路を整備します。また、通過交通から安全・安心な生活道路を確保するため、既存の道路拡幅や新規ルート of 整備を進めます。
- 道路整備と併せて、バス便の新規ルート開設や増便等について検討していきます。

② 生活の質を高める施設の整備をする

- 既存の集落地域においては、下水道の整備や合併浄化槽の導入支援等の汚水処理環境の改善を検討し、生活に不可欠な都市基盤を改善するとともに河川の水質の向上を図り、環境に負荷を与えない暮らしを支援していきます。
- 地域の持続的な生活を支えるため、日常的な生活に欠かせない施設やうるおいをもたらす施設を、生活道路沿道等で必要な検討を行います。

③ 農地や農道の整備等により営農環境を改善する

- 農地へのアクセスの改善や日照の確保等を行い、地域農業者の営農環境及び新たな担い手が農に親しむことができる環境を整えていきます。

基本方針 3

かけがえのない多摩丘陵の風景を将来に引き継ぐ

北部丘陵は広域的にみると多摩丘陵の一角をなしています。その多摩丘陵は東京の8つの丘陵の中で最も大きく、関東山地から町田市域を通り三浦丘陵に至る首都圏の広域的な緑のネットワークを形成しています。中でも北部丘陵のある一帯は特に豊かな緑を抱える広域的にも重要な地域です。また北部丘陵は川崎市や横浜市の市街地を流域に持つ鶴見川の源流域として、治水等の観点から自然環境の保全や貯留増進が期待されています。

また北部丘陵には、小山田緑地や函師・小野路歴史環境保全地域等のように既存の制度に位置づけられた緑地やその他にも地域住民の手によって育まれてきた緑が多くあります。その中には、都内でも有数の自然環境の資質が高い谷戸が複数あり、質としても恵まれた自然環境は同時に多摩丘陵の原風景を今に伝えていきます。こうした環境は生物多様性の保全にとっても重要です。

このように広域的な緑のネットワークや鶴見川流域の治水、貴重な丘陵の原風景等、幾つもの視点から重要性が指摘されている北部丘陵のまとまりのある水と緑豊かな環境を将来へ引き継ぐため守るべき場所を明確にし、確実に保全・再生していきます。また、保全・再生を通して担い手の活躍の場や情報発信の素材として活用していきます。

【取り組みポイント】

- ① 法制度等を用いて重要な緑を確実に保全・再生する
- ② 独自の誘導・支援により東京随一の美しい丘陵風景を保全・再生する

①法制度等を用いて重要な緑を確実に保全・再生する

- 北部丘陵は、多摩三浦丘陵の緑のつながりや東京都内の丘陵群、鶴見川流域ネットワークにおける源流域としての水と緑の保全、隣接する多摩ニュータウンの緑の拠点（長池公園）とのつながり等、首都圏の広域的な視点を考慮し、水と緑のネットワークを形成します。
- 広域的な緑のネットワークや町田市の緑の骨格を形成するための要となる重要な6箇所の緑（源流保水の森、野中谷戸、西山中谷戸、東谷戸および奈良ばい谷戸、鎌倉街道小野路宿緑地、函師緑地）を、それぞれの特徴に応じて保全・再生します。
- また、都市計画法や都市緑地法等に基づく指定や東京都および町田市の条例等を活用し、公有地化も含めた区域指定を検討していきます。

②独自の誘導・支援により東京随一の美しい丘陵風景を保全・再生する

- 特徴のある丘陵の美しい風景を維持し高めていくために、例えば町田市景観計画に基づく景観形成誘導地区の指定、眺望点やシンボルツリーを地域景観資源として登録する等、独自の誘導策や支援策を活用し、美しい丘陵の風景を維持・創出していきます。
- 国や東京都に北部丘陵の美しい風景を守る新しい支援制度の創設を提案し、実現に向けて

検討していきます。

○丘陵の風景に馴染む水路・河川の維持改善を実施していきます。

○点在する民有緑地や農地の適正な保全・管理のための支援を検討していきます。

■ 6つの重要な緑のまとまりの保全・再生の方向

位 置		保全・再生の方向
樹林を中心にした 保全・再生エリア	源流保水の森	鶴見川の源流域としてできるだけ地形の改変を避け、植生や生物の多様性を回復し、水系の保全を図る。
	鎌倉街道小野路宿緑地	美しい緑地景観や動植物の生息・繁殖環境の保全に資する緑地として保全を図る。
	函師緑地	美しい緑地景観や動植物の生息・繁殖環境の保全に資する緑地として保全を図る。
農を中心にした 保全再生エリア	野中谷戸	新たな担い手によって樹林地や農地を活用する新しいアイデアを求めながら、谷戸の風景の再生に取り組む。
	西山中谷戸	多摩地域の谷戸の中でも自然環境の資質が高い谷戸として、谷戸の風景の再生に取り組む。
	東谷戸および 奈良ばい谷戸	現在行われている谷戸の再生の取り組みを踏まえ、多様な担い手による樹林地や農地の活用を図りながら、谷戸の風景の再生に取り組む。

基本方針 4

資源を磨き「地域力」を発信する

北部丘陵には、コナラ・クヌギ等の雑木林、尾根の緑に囲まれ田畑が広がる美しい風景等の良好な自然資源とともに、小山田・小野路城址や小野路宿通り等の歴史・文化資源も各所に点在します。しかしこうした北部丘陵の魅力は一般的には十分に認識されているとは言えません。

そのため、こうした自然・歴史・文化資源を更に磨き、創意工夫を重ねながら情報発信し地域の価値を高めていきます。また、北部丘陵の特徴を活かし、経済的な視点を考慮した取り組みも行っています。

【取り組みポイント】

- ① 自然・歴史・文化資源を磨き、新しい観光・交流の拠点をつくる
- ② 北部丘陵の魅力や活動を積極的に情報発信する
- ③ 地域の経済的な循環が成り立つ持続可能な仕組みをつくる

① 自然・歴史・文化資源を磨き、新しい観光・交流の拠点をつくる

- 北部丘陵の自然・歴史・文化資源や散策ルートの情報を入力したり、来訪者の休憩場所、環境学習の場、様々な担い手や地域住民の活動の拠点となる等、様々な機能を持つ「交流・回遊の拠点」を整備します。
- 北部丘陵には、水と緑の拠点や、コナラ・クヌギ等の雑木林、尾根の緑に囲まれ田畑が広がる美しい谷戸の風景等の良好な自然資源とともに、小山田・小野路城址や小野路宿通り等、歴史・文化資源も各所に点在します。市内ではNPOを中心にフットパスの取り組みが進められています。こうした取り組みと連携し、北部丘陵の自然資源や歴史・文化資源等を回遊するルートを整備します。また、駅からのアクセスや車で来訪を考慮しバス停や駐車場等とつながり、よこやまの道や尾根緑道等、周辺の散策ルートにも広がる回遊のネットワークとして整備します。
- 北部丘陵の来訪者には、地域の成り立ちの理解や散策マナー向上の啓発を行っていきます。あわせて、自然・歴史・文化資源や散策ルートの案内板を充実させる等により、地域の自然環境や生活環境に配慮します。
- 回遊のネットワークの整備に加え、ネットワークの魅力をさらに高めるために、自然・歴史・文化資源を散策のスポットとして整備します。また、ネットワークのルート沿いを中心に花のある道をつくる等、新しいスポットを市民参加によって整備していきます。

② 北部丘陵の魅力や活動を積極的に情報発信する

- 北部丘陵では、現在も市やNPO、市民団体等が主体となって様々な取り組みを実施しています。そうした取り組みも含め、北部丘陵に関する情報を一元化して発信し、北部丘陵

への関心を高めていきます。また、計画や事業の進捗状況の報告、各取り組みの成果の紹介を随時行っていきます。

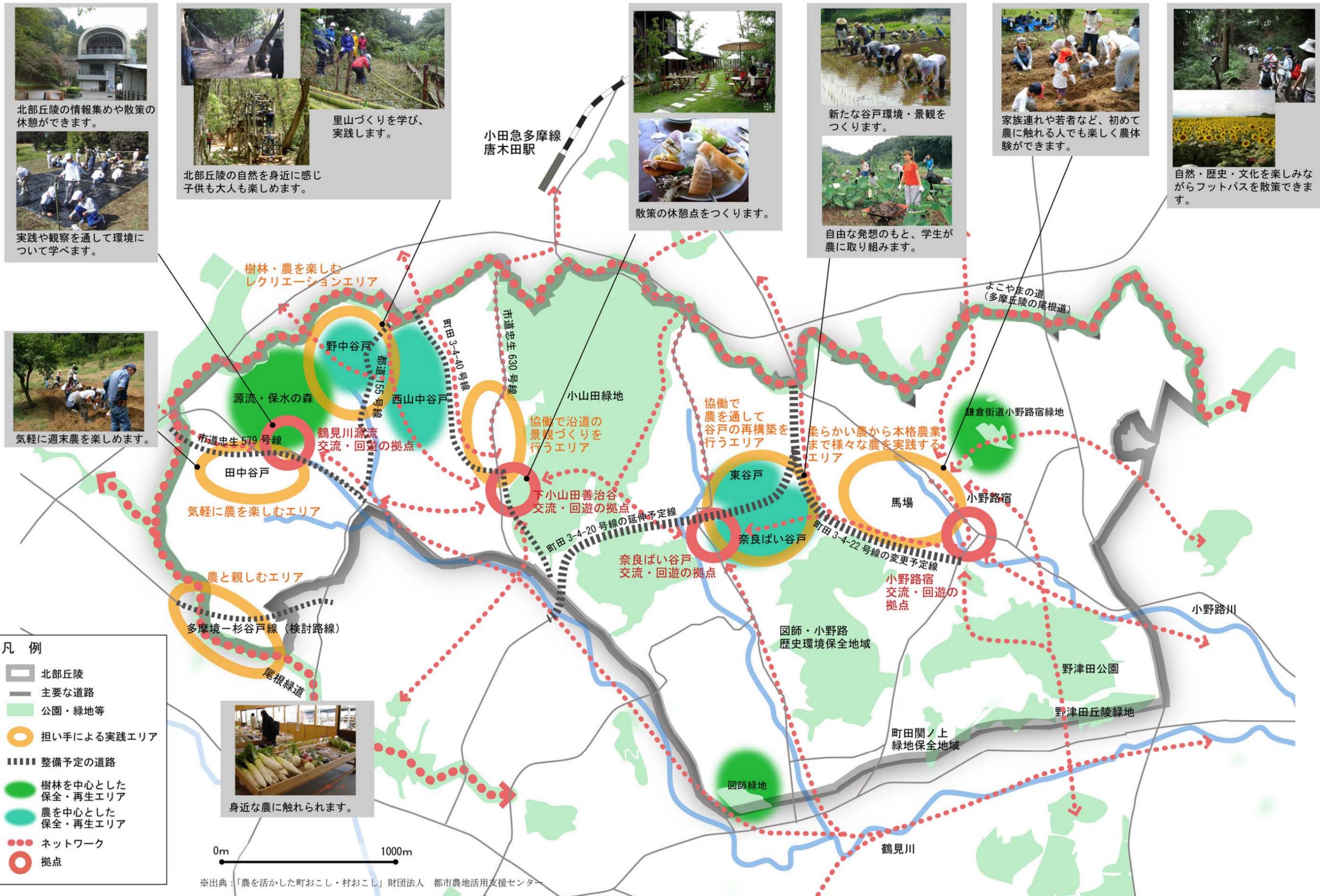
③地域の経済的な循環が成り立つ持続可能な仕組みをつくる

- 地域の経済的な循環が成り立ち、北部丘陵での生活や活動が将来にわたって維持できる仕組みづくりに向けて、地域の個性や特徴を活かした地域ブランドとなるような商品・サービスを開発します。
- 北部丘陵で農地や樹林等を活かした経済活動に取り組む企業等の誘致・支援や、新たなビジネスモデルの提案等を受け止めていきます。
- 意欲ある農家や新規就農者が農業を維持・発展できるように、北部丘陵で採れた農産物の直売所の開設や運営を支援していきます。

■拠点の整備の考え方

交流・回遊の拠点	主な内容
鶴見川源流付近	・小山田地域における様々な担い手や地域住民の活動の中心となるとともに、鶴見川源流保水の森や鶴見川源流泉のひろばを中心として北部丘陵の自然にふれながら環境について学ぶことのできる、活動や環境学習の拠点として整備する。
下小山田善治谷付近	・農産物直売所や休憩施設等を整備し、地域住民を始めとする様々な担い手が集うとともに、北部丘陵の自然・歴史・文化資源や散策ルートの情報を得ることができる拠点を整備する。
奈良ばい谷戸付近	・谷戸田の再生等を通じて市民が農とふれあうことができ、また北部丘陵の中央部に位置する結節点として、トイレやベンチ等の休憩施設等を設けた拠点を整備する。
小野路宿	・小野路地域における様々な担い手や地域住民の活動の中心となるとともに、小野路地域の散策の拠点として整備する。 ・小野路宿の歴史的な環境に配慮し、既存の建物を改修整備した観光交流センターを設置する。

■北部丘陵の基本方針展開イメージ



北部丘陵の情報集めや散策の休憩ができます。



実践や観察を通して環境について学べます。



北部丘陵の自然を身近に感じ子供も大人も楽しめます。



里山づくりを学び、実践します。

小田急多摩線
唐木田駅



散策の休憩点をつくります。



新たな谷戸環境・景観をつくります。



自由な発想のもと、学生が農に取り組みます。



家族連れや若者など、初めて農に触れる人でも楽しく農体験ができます。



自然・歴史・文化を楽しみながらフットパスを散策できます。



気軽に週末農を楽しめます。

樹林・農を楽しむ
レクリエーションエリア

野中谷戸

源流・保水の森

田中谷戸

気軽に農を楽しむエリア

農と親しむエリア

多摩境-杉谷戸線 (検討路線)



身近な農に触れられます。

市道忠生 630 号線

市道忠生 579 号線

野中谷戸

西山中谷戸

小山田緑地

協働で沿道の
景観づくりを
行うエリア

下小山田善治谷
交流・回遊の拠点

奈良ばい谷戸
交流・回遊の拠点

東谷戸

奈良ばい谷戸

馬場

小野路宿

小野路宿
交流・回遊の
拠点

図師・小野路
歴史環境保全地域

図師緑地

鶴見川

鎌倉街道小野路宿緑地

野津田公園

野津田丘陵緑地

町田関ノ上
緑地保全地域

よこやまの道
(多摩丘陵の尾根道)

小野路川

